

茨城県建築センターの耐震診断・補強計画判定会議の概要

判定会議

1) 委員

委員長: 林静雄 (東京工業大学 名誉教授)

副委員長: 竹内徹 (東京工業大学大学院 教授)、太田勤 (株堀江建築工学研究所 取締役所長)

委員: 大村哲矢 (東京都市大学 准教授)、高橋優 (高橋建築構造設計室 主宰)

鈴木裕美 (大成建設株設計本部構造設計第一部長)、増田直巳 (株三菱地所設計リノベーション設計部 ユニットリーダー)

衣笠秀行 (東京理科大学 教授)、高木仁之 (明治大学 教授)

田尻清太郎 (東京大学大学院 准教授)、小沼紀男 (茨城県土木部都市局建築指導課長)

成田和彦 (茨城大学工学部 准教授)

2) 開始時間

原則として、10:00 開始とする。

3) 判定件数

原則として、判定件数は 10 件以内とする (委員の協力が得られる日は、判定数を増やすこともある)。

4) 内容説明

耐震診断・補強計画の内容説明は原則として事前審査を担当した委員が行う。

5) 事前審査

予備事前審査用報告書は、判定会議の 25 日前までに提出する。

茨城県建築センターの予備審査チェックによる承認を判定会議の 14 日前までに得る。

予備審査の承認がないものは事前審査にかけない。

事前審査委員の事前審査チェックは、原則的に判定会議の 10 日前に終了する。

事前審査委員 (判定会議説明者) の承認を得ていないものは、判定会議にかけない。

6) 予備審査の注意事項

1. 調査不足のまま、仮定による耐震診断や補強計画の結論を導き出している案件は、予備審査で承認しない。

2. 耐震診断・補強計画の報告書のまとめ方は「耐震診断・補強計画判定会議一申込から判定書の発行まで」

「耐震診断報告書目次」、「補強計画報告書目次」に準じてください。以下に一部抜粋して記します。

調査、試験結果を標準偏差値で評価するものはサンプルを表にまとめる。

鉄骨の調査は接合部 (溶接、ボルト) の調査結果と解析の整合性を図ることができるものとする。

S 造は超音波探傷検査を要求する場合がある。

応力の流れ強度の担保が求められる溶接部はサング- 掛けして溶接部分の状況の解る写真、資料が必要。

試験結果のデータを使用する場合は、試験機関名を記す。

調査、試験結果を評価した値を耐震診断に採用する場合は、評価値を用いる。設計時の基準強度を採用する場合はその妥当性を記す。

調査、試験を行う場合は、写真を撮り、整合性を図る。

例) コンクリートコア抜きする場合は、仕上げ材、かぶりコンクリートの状況が分かるものとする。

架構図を作成する (解析モデル図と照合できるもの)。

断面リスト作成する (原則として鉛直部材全て、梁は図面添付を可とするが、見にくいものは新規に作成する)。

診断解析用データには必ず梁の主筋、補強筋を入力する (耐力壁の評価、第 3 次診断を補足的に求める場合がある)。

鉛直部材は種別リストを作成する。

荷重表、長期軸力、地震時軸力、単位面積当たりの重量を記載する。

雑壁の取扱いは明示する。

該当建物の耐震診断での第 2 種構造要素に対する考え方と第 2 種構造要素の有無を示す。

付属物は全て耐震性能、または安全性を検討する。

非構造部材のコンクリートブロック塀は面外方向の転倒を検討する。